

地～ 味な山 母衣月山

北稜クラブにそぐわないですが、母衣月山の記録を報告します。

まずは、どこにあるかを知っている会員は、・・・・・・いますかね？

道央 寿都町に有る寿都半島、月越山脈の主峰で標高503.5m 山頂には、北海道に224 個しかない、一等三角点があります。

母衣月（ホロツキ）とは、、昔 アイヌコタンに貧しい母娘が居ました。娘はたいそう綺麗で、言い寄ってくる多くの男の中から、月からの使者である男と結ばれるため、母の服を羽織って月へと向かいました・・・・ウソです。今時こんな作り話を信じるのは、大陸からの観光客ぐらいですかね・・

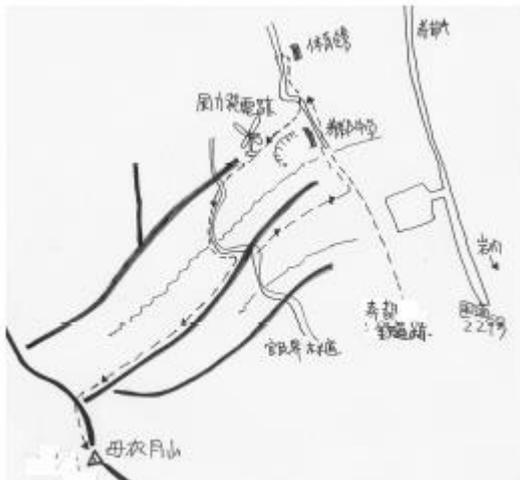
語源はアイヌ語で、ホロ・トゥキ→ 大きな・盃 山容が盃を伏せた形に似ているからでしょう。寿都湾の歌棄付近から望むとなっとく出来ます。

さて 本題、

2015年1月13日 明確な登山道のないこの山に登るためには夏期は月越峠からタケノコロードを漕いで行くのが多いですが、今回は寿都の町からスキーでアプローチしてみました。 純粋な登山ですので・・・・スキー滑降が良い所ではありませんでした。

寿都体育館に車を止め、寿都中学校脇の雑林を登って行きます。 途中赤松が群生している所があります、きっとその昔 運上屋の方々が、故郷から持ち込んだ物ではないでしょうか。

現在使われて居ない道内最古の風力発電用風車の脇に出て、官民界林道に入り、左となりの尾根を登ります。 椴松植林地が多く、各所に収穫調査タグがあります、後4～5年後には伐採されます。急斜面の植林を越えると、稜線に上がります。稜線は平らでコンパスを切って頂上を目指します。



頂上には、私設看板があるだろうと想定していましたが、有りませんでした。

訪れる人が多いのに意外でした。 頂上からは、怒濤の日本海、綺麗に蛇行した朱太川と黒松内三山が良く望めます。

さて下りは、特にオープンバーンが有るわけなし、植林、雑林帯を縫うように下ります。 途中から少しは滑りやすい所を狙って、林道に行かず、まっすぐ尾根を下り、寿都鉄道跡地を、寿都中学校へと戻りました。 登り～ 3時間 下り～ 1時間20分

文責 辻野 健治